

Twitterにみるオノマトペに後接する接尾辞ミの機能

宇野 和*

1. はじめに

近年Twitter¹上では、本来一部の形容詞や形容動詞の語幹にしか接続しなかった接尾辞ミが語基の範囲を拡張し、濫用とも呼べるほどの発展を見せている。論者はこのような新しい用例を「新しいミ形」と名付け、その意味や機能に関する調査を行ってきた²。新しいミ形とは、主にTwitter上で用いられる、様々な品詞を語基として作られた接尾辞ミの新語形のことである。この新語形は、[1]の「つらみ」のように、形容詞を語基としたものから語基を拡張していったと考えられ、現在Twitter上で見られる用例には、形容詞や形容動詞のほかにも名詞、動詞、助動詞、接尾辞、オノマトペと、様々な品詞を語基としたものがある。

[1] 誰にも見せないつもりで落書きを晒されるのつらみがある (2014/5/9)

このようなTwitter上で用いられる言語についての研究には、東川 (2015)、岡田 (2015) などのヴァーチャル方言や略語についての研究があるが、ブログや掲示板などで用いられる言語についての研究³と比べるとまだ少ない。その中でも新しいミ形についての研究は、宇野 (2015)、宇野 (2017) のほかには、「ねむみ」について分析を行った依田 (2016) が見られるだけである。

従来のオノマトペのミ形については杉岡 (2005) において「とろみ」「ザラみ」などが例としてあげられるにとどまり、課題の残されている

語形であると言えるだろう。

オノマトペの新しいミ形は [2] のような例であり、これはこれまでミが接続することのなかったオノマトペにミが接続したものである。このように、Twitter上では、接尾辞ミの語基の拡張によりオノマトペの新しいミ形が多数出現していることが確認できる。

[2] 体のぼかぼかみがすごい (2017/10/25)

2. 研究目的および研究方法

本研究では、まず、オノマトペの新しいミ形の種類について、どのような型・意味のオノマトペがミ形となるのかを確認する。次に、オノマトペの新しいミ形の機能について、用法やコロケーション、意味はどのようなものであるかを明らかにする。

用例の収集には「Twitter / Search 高度な検索」を用いた⁴。対象の期間は2017年10月31日までとした。Twitterの検索結果は新しいものから古いものへと遡る形で表示されるため、起点は決めずにこの日付までの全ツイートを対象とする。

調査対象とするオノマトペは『日本語オノマトペ辞典』の「意味分類別さくいん」に掲載されている2470語を基準とし、この2470語に接尾辞ミをつけた形をそれぞれ検索することによって用例を収集した。

*お茶の水女子大学大学院院生

3. オノマトベの新しいミ形の種類

3.1. オノマトベの新しいミ形の型

オノマトベには様々な型があるが、そのうちほとんどの型においてミ形が出現した。用例の多かったものはまずABAB型があげられる。このABAB型は、オノマトベにおいて最も所属語が多い型であることから、新しいミ形においても多く現れた。そしてこのABAB型は「ABABみ」としてだけではなく、「ABみ」と略した形のミ形も多く現れた。[3a]の「ぼかぼかみ」は、同じような文脈である[3b]では「ぼかみ」と略した形で用いられている。

[3a] 体の**ぼかぼかみ**がすごい (2017/10/25)

[3b] 身体が**ぼかみ**… (2017/9/10)

また、AッBリ型、AンBリ型も、オノマトベの中では所属語の多い型であり、「びっくりみ」「のんびりみ」のように新しいミ形が多く現れた。

一方、新しいミ形となりにくいのは、「ヒュッ」「ぎーっ」のような、最後が促音になる型である。これらは「ヒュッみ」のようになり、実際には発声しづらい語である。Twitterは話すように文字を入力する「打ち言葉」の見られる媒体であることから、このように発声しにくい形については現れにくい結果となったことが考えられる。

また、ABンABン型やABリABリ型のように、6拍以上であり、かつABの部分が畳語となっているオノマトベも新しいミ形が現れなかった型である。しかし[4a]のように、「ぶるんぶるんみ」ではなく「ぶるんみ」のように「ABン」の部分のみを語基としたり、[4b]の「ふらふらみ」のように「ふらりふらり」ではなく「ABAB」の部分のみを語基としたりした例は見られた。これは、Twitterは140字の文字制限があり、できるだけ短い表現が好まれるということから、6拍以上のオノマトベで、特に畳語のものは省略した表現となっていると考えられる。

[4a] **ぶるんみ**…………… (2017/6/12)

[4b] 吐き気無いのありがたいけどふらふら
みが深い(?) (2017/8/22)

ただし、「えっちらおっちら」や「ガタンゴトン」のように、オノマトベ自体の語基部分がABCB、ABCDと畳語にならない場合には、6拍以上でも新しいミ形となる例が確認できた。

3.2. オノマトベの新しいミ形の意味カテゴリ

ここでは『日本語オノマトベ辞典』の「意味分類別さくいん」に沿って分析を行う。「意味分類別さくいん」は大きく〈自然〉〈人間〉〈事物〉の意味カテゴリに分かれており、さらにそれぞれ【中カテゴリ】、《小カテゴリ》と分かれている。

3つの大カテゴリごとの出現率をまとめると、〈自然〉カテゴリ23.4% (261語中61語)、〈人間〉カテゴリ27.9% (942語中263語)、〈事物〉カテゴリ19.2% (1267語中243語)である。全体としては延べ2740語のうち567語にあたる23.0%が新しいミ形となっている。この割合はそれほど高くないように見えるが、オノマトベのミ形として従来存在するものは少なく、一般に用いられているのは「とろみ」に限られていることを考えると、造語力が急激に増していることが指摘できるだろう。以下にカテゴリごとの特徴を詳しく述べる。

まず大カテゴリが〈自然〉となっていたオノマトベだが、このカテゴリ内の中カテゴリには【天気】や【温度】など「状態」や「様子」を表すものが多く、各カテゴリの出現率が全般的に2～3割となっている。

次に〈人間〉のオノマトベについて分析する。このカテゴリ内の中カテゴリは4つあるが、そのうち【動作・状態】の《疲れる》カテゴリ、【感情・感覚】の《喜ぶ》カテゴリはそれぞれ出現率が70%を超え、多くの語が新しいミ形となっている。用例を見ると、[5a]の「くたくたみ」が疲れている「状態」を表していて、[5b]の「ホクホクみ」が喜んでいる「様子」を表しているように、「状態・様子」を表すオノマトベは新しいミ形になりやすいということが指摘できる。

[5a] 今日はくたくたみがすごいから、お返事関係は明日しますー！！ (2016/9/1)

[5b] 思いの外単発のおしごとのおちんぎんもらえてホクホクみ (2016/8/21)

一方で【起きる・立つ】のカテゴリの出現率は4.5%とかなり少ない。このカテゴリの所属語には勢いよく起き上がる意味の「ガバッ」など「立ち上がるという瞬間的な動作そのもの」を表したオノマトペが多い。ここから、単なる動作を表すオノマトペは新しいミ形になりにくいことが指摘できる。

また、大カテゴリ〈事物〉のオノマトペについて、中カテゴリごとの出現率を表1にまとめた。表1を見ると、【音・道具・金銭】において出現率がかなり低くなっている。このカテゴリの所属語には「ガッチャン」のような擬音語が多い。つまり擬音語は新しいミ形になりにくいことが指摘できる。

表1 「事物」カテゴリのオノマトペの新しいミ形の出現率

中カテゴリ	出現語数／所属語数	%
動き・変化	58/341	17.0%
形・状態	88/255	34.5%
音・道具・金銭	23/402	5.7%
程度	74/269	27.5%
合計	243/1267	19.2%

ここまですまえて、オノマトペの新しいミ形の種類についてまとめると、「状態・様子を表すオノマトペは新しいミ形になりやすい」ということが言え、一方で単なる動作を表すオノマトペや擬音語は新しいミ形になりにくいということが言える。

3.3. 意味の差異とオノマトペの新しいミ形

さらに、同じオノマトペでも表す意味が異なれば新しいミ形になることもあるということが指摘できる。[6] は酒に酔って足元がおぼつかなくなった状態を「フラフラみ」というオノマトペのミ形で表している。これは「状態」を表している

からこそ新しいミ形となるのであり、「彷徨い歩く」という単なる動作を表す「フラフラ」は新しいミ形としての用例は現れなかった。

[6] お酒飲んでフラフラみがある (2017/8/11)

また、擬音語は新しいミ形になりにくい一方で、状態を表すことができる擬音語については、新しいミ形となることができることがわかった。[7a] はイヤホンから「シャカシャカ」という音が聞こえるという音自体の描写でなく、「高音が際立って聞こえてくる状態」であることを述べているため新しいミ形となっている。また [7b] はアクセサリーをたくさんつけた女性キャラクターの画像が添付されていたツイートの文章である。この「ジャラジャラみ」は「ジャラジャラ」という音自体ではなく、視覚的にアクセサリーが「ジャラジャラした状態」であることを述べていると考えられる。

[7a] いつものイヤホンが見つからなくて適当なの使ってバ向⁵してるんだけどシャカシャカみがとどまるところを知らない (2017/8/17)

[7b] ジャラジャラみとかチラ見えとかかわゆ！ (2017/6/29)

以上のように、新しいミ形となるオノマトペは「状態・様子」を表すものであるという特徴が、考察の結果明らかにできた。

4. オノマトペの新しいミ形の機能

ここでは形容詞の新しいミ形と比較する⁶ことによって、オノマトペの新しいミ形がどのような機能を持つかを明らかにしていく。

対象とするオノマトペの新しいミ形の所属する中カテゴリは、【眠る・寝る】、【暑い・あたたかい】の2つのカテゴリとする。【眠る・寝る】と比較する形容詞の新しいミ形である「ねむみ」は、宇野(2015)における調査で最も多く用例の現れた語のひとつである。【暑い・あたたかい】カテゴリは、

カテゴリ名が形容詞であり、「暑み」という新しいミ形も宇野（2015）における調査で用例が多く現れた語である。なお、「あたたかみ」は新しいミ形ではなく正用のミ形であるが、本稿では比較の対象とした。

オノマトベの新しいミ形の用例は、【眠る・寝る】では26例中6例、【暑い・あたたかい】では24例中9例であった⁷。

4.1. 眠る系オノマトベの新しいミ形

まず、眠る系オノマトベの新しいミ形について考察していく。「ねむみ」と眠る系オノマトベの用例を見ると、どちらもミ形1語文のツイートが多く現れた。こうしたミ形1語文のツイートを、宇野（2015）では「単独型」と名付け形容詞の新しいミ形において重要な用法であると結論付けている。この単独型が、「うとうとみ」で全用例の57%で見られ、またほかの眠る系オノマトベのミ形においても多く見られた。特に「すやすやみ」は84%が単独型であったが、これは「すやすやみ」が「おやすみ」と同様の意味で挨拶ことばとして用いられていることから高い割合で現れたと考えられる。

また、形容詞の新しいミ形は用言用法の用例が多いが、これがオノマトベの新しいミ形でも見られた。用言用法というのは、副詞や活用語の連用形が接続するなどした、用言に置き換えても意味の通るミ形の働きである。例えば、「めっちゃねむみ」の場合「めっちゃ」という副詞がついており、「ねむみ」は「眠い」と置き換えても自然な文となる。同様に、オノマトベの新しいミ形の例である [8a] の「うつらうつらみ」や [8b] の「スヤスヤみ」も、形容詞である「眠い」と換言しても自然な文となることから、用言的な働きをしていると推察される。

[8a] 眠い眠いよ… さっきからうつらうつらみ… (2017/2/21)

[8b] ただいまーすでにスヤスヤみ (2015/10/30)

続いてコロケーションを見ていく。「ねむみ」や眠る系オノマトベはどちらも程度を表す形容詞「強い」、「深い」と多く共起しており、「ある／ない」や「感じる」とも共起していた。このように、眠る系オノマトベと「ねむみ」では、そのコロケーションに差があまりないことがわかった。

では、用法もコロケーションも類似している「ねむみ」と眠る系オノマトベの違いはどのような点にあるのか。それは、眠る系オノマトベのほうが意味が細分化されているという点である。

[9a] 体がポカポカしてるせいも相まって、うとうとみがすごい (2017/5/17)

[9b] 時間遅いし明日渡そうすやすやみ (2017/6/12)

[9c] 眠い眠いよ… さっきからうつらうつらみ… (2017/2/21)

[9d] 軽く寝てから出勤しようと思ったらぐっすりみがあり10度寝になった (2016/12/20)

以上の [9a] ～ [9d] を見ると、その意味の差異が文脈から判断できる。「うとうとみ」は「眠気を感じている状態」を表し、語の使用者はまだ寝ていない。「すやすやみ」も同様に、「眠気を感じている状態」を表すか、先に触れたように挨拶のことばとして用いられる。この [9b] の「すやすやみ」は「おやすみなさい」という意味で用いられていると考えられるため、まだ寝ていない。「うつらうつらみ」は、「うとうとみ」よりもより眠りに入りつつある状態を述べていると考えられ、半分寝たような状態であると言えるだろう。そして、「ぐっすりみ」はすでに眠ってしまったあと、目が覚めてから「よく寝た、寝ていた」という状態を述べている。このように、オノマトベの新しいミ形は、オノマトベ自体の意味を引き継いでおり、語の使用者の感じる眠気を段階ごとに表現し分けることができるのである。これは、形容詞を用いた「ねむみ」では表せないニュアンスの差であると言える。

4.2. 暑い系オノマトペの新しいミ形

次に、暑い系オノマトペの新しいミ形の特徴を、「暑み／あたたかみ」と比較することで見ていく。「あたたかみ」は、正用としては単独で用いることができないため、単独型は100件のツイートのうち2件のみとなった。形容詞の新しいミ形は傾向として単独型が現れやすいが、「暑み」は100件のうち20%ほどの出現率であったことから単独型がやや少なめであると言えるだろう。一方、暑い系オノマトペの場合は、単独型の割合が「ほのぼのみ」「ほんわかみ」のように全体の1割に満たないほど少ないものもあれば、「ぬくぬくみ」「ほかほかみ」のように全体の半数を超えるほど多いものもあった。「ほのぼのみ」や「ほんわかみ」は場の雰囲気や心中のあたたかさを表す比喩的な語であり、単独で用いると対象物が分からず読み手に意味が伝わらない恐れがある。しかし、「ぬくぬくみ」や「ほかほかみ」は気温や体温のあたたかさを表すために、単独で用いても意味が通じることから、このように単独型の出現数に差が生じたと考えられる。

そしてコロケーションについてだが、暑い系オノマトペは「ある」「感じる」と共起する例が多く見られ、これは「暑み」「あたたかみ」と同様の傾向であると言える。しかし、暑い系オノマトペでは「すごい」という程度を表す形容詞と共起しているのに対し、「暑み」や「あたたかみ」は2014年の段階では共起していなかった。新しいミ形は全般的に程度を表す形容詞と多く共起する傾向にあるため、2017年の段階では「暑み」「あたたかみ」も「すごい」や「強い」などと共起している例が確認できる。つまり、「暑み／あたたかみ」と暑い系オノマトペのコロケーションも、現段階では「ねむみ」と眠る系オノマトペのコロケーションと同様、差があまりないと言える。

この「暑み／あたたかみ」と暑い系オノマトペの違いも、眠る系オノマトペでの考察と同様、意味の細分化という点にあると考えられる。[10a]

～ [10c] の用例は、それぞれ「あたたかみ」と言い換えても文意の通る文だが、ゆたんぼに対して「ぬくぬくみ」、お風呂に対して「ほかほかみ」、お布団に対して「ぼかぼかみ」が用いられており、これらは「あたたかみ」では表しきれないニュアンスの違いを生み出していると考えられる。

[10a] ぼっちゃんの家にはあったなあ ゆたんぼ…あのなんともいえないぬくぬくみが好きだった (2016/12/16)

[10b] お風呂上りかな?? みたいなホカホカみを体から感じている (2016/11/14)

[10c] お布団ぼかぼかみ (2017/10/28)

これらの用例を見ると、暑い系オノマトペは、その温度の段階によってオノマトペを選んでいくというよりは、対象物によってふさわしいオノマトペを使い分けていると考えられる。これは、眠る系オノマトペが眠さの段階によってオノマトペを使い分けていた点と異なるが、これも暑い系オノマトペの意味を継承しているためであると考えられる。

4.3. 挨拶ことばとしてのオノマトペの新しいミ形

最後に、今回の調査によって新たに発見した新しいミ形の機能を指摘する。

先にも触れたが、オノマトペの新しいミ形には、それだけで挨拶ことばのように用いる例が出現した。それは、「すやすやみ」と「ほかみ」である。

まず、「すやすやみ」はそれだけで「おやすみ」と同様の意味を表していると考えられる。以下はその用例であるが、[11a]の「寝ねば」というツイートに対し、[11b]では「すやすやみ」と返している。これは「すやすや」というオノマトペが眠っている様子を表す点からこのように発展したと考えられるが、「すやすやみ」と「おやすみ」は「やす」と「み」という同じ音を持っているため、「すやすやみ」の構成要素が「おやすみ」と似ていたことも影響しているのではないだろうか。

[11a] まあいいや、寝ねば～(寝)

(2017/10/17) → [11b] すやすやみ～
(2017/10/17)

次に「ほかみ」だが、これは2通りの意味を表していると考えられる。それは、「お風呂にいつてらっしゃい」と「お風呂からおかえりなさい」である。もともとTwitterではお風呂に入ることを「ほかる」と言うことが米川(2016)で指摘されているが、ここから発展して、「ほかみ」が挨拶のことばとなったと考えられる。[12a]の「ふろ」は「お風呂に行ってくる」という意味のツイートである。そのツイートに対して[12b]で「ほかみ」と返信しており、これに[12c]で「ほかあり」と返事している。この「ほかあり」は「お風呂にいつてらっしゃいと言ってくれてありがとう」の意味を持つから、[12b]は「お風呂にいつてらっしゃい」という意味の挨拶であると考えられる。

[12a] ふろ (2017/6/21) → [12b] ほかみ～
～～ (2017/6/21) → [12c] ほかありー!
(2017/6/21)

次の[13a]は「ゆあがり」、つまり「お風呂からあがった」というツイートで、それに対し[13b]が「ほかみ」と返信している。[13c]が「ただいま」と返事していることから、この[13b]の「ほかみ」は「お風呂からおかえりなさい」という挨拶であると解釈できるのである。

[13a] ゆあがり。(2017/9/25) → [13b] ほかみ (2017/9/25) → [13c] ただいま。(2017/9/25)

このように、オノマトベの新しいミ形独自の用法として、ミ形で挨拶を表すものが現れたことは、注目に値するだろう。

5. まとめ

本稿ではまずオノマトベの新しいミ形の種類について考察をした。結果、「状態・様子」を表すオノマトベは新しいミ形になりやすいことがわかった。一方で新しいミ形になりにくいものは、

最後が促音になる型・6拍以上、かつ畳語のオノマトベ・単なる動作を表すオノマトベ・擬音語であることがわかった。

そして、オノマトベの新しいミ形の機能については、意味の細分化が主な機能だと言える。形容詞のミ形と意味や用法、コロケーションが似通っている場合があるが、オノマトベの新しいミ形独自の機能としては、細分化、そして新たに見られた挨拶ことばとしての用法があげられる。

オノマトベの新しいミ形は状態を表すオノマトベを中心に語基を拡大している。このオノマトベの新しいミ形は、短く簡潔に、そして意味を細分化して述べることができるためにTwitter上で広まった。より短いことばで、できるだけ具体的に事物を言い表したいというTwitterユーザーのニーズとともに、このオノマトベの新しいミ形は今後も発展していくと考えられる。

【注】

- 1 Twitterは2006年にアメリカでサービスが開始された新しいメディアであり、スマートフォンの普及によって日本でもユーザー数が急速に増加している。
- 2 宇野(2015)では形容詞の新しいミ形、宇野(2017)では助動詞「たい」の新しいミ形について研究を行った。
- 3 ブログで用いられる注釈的表現を見た岸本(2016)、「2ちゃんねる」やニコニコ動画で用いられる言語を観察した内山(2010)などがある。
- 4 これはキーワードや日時を絞りツイートを検索することができる、Twitter公式の検索機能である。
(<https://twitter.com/search-advanced>)
- 5 「バ向」は「バイトへ向かう」の略語である。
- 6 形容詞のミ形のデータは宇野(2015)のものを使用したため、形容詞のミ形の用例の日付は2014年5月20日までとなっている。
- 7 下記に出現したオノマトベを記載する。
【眠る・寝る】6例：うとうと、うつらうつら、ぐすり、ごろん、すやすや、ばたんきゅー
【暑い・あたたかい】9例：ぬくぬく、ほかほか、ほかほか、ほこほこ、ほっかり、ほのぼの、ほんわか、むしむし、むんむん
以下、【眠る・寝る】に所属するものを「眠る系オノ

マトペ、【暑い・あたたかい】に所属するものを「暑い系オノマトペ」と呼ぶ。

【参考文献】

- 内山弘 (2010) 「ネットの日本語—2ちゃんねるとニコニコ動画を中心に—」『地域政策科学研究』 7
- 宇野和 (2015) 「Twitterにおける『新しいミ形』」『国文』 123
- 宇野和 (2017) 「Twitterにおける助動詞『たい』のミ形—その機能と使用拡大の要因—」2016年度お茶の水女子大学修士論文
- 岡田祥平 (2015) 「インターネット上に観察される略語」『日本語学』 34-2
- 小野正弘 (2007) 『日本語オノマトペ辞典』小学館
- 岸本千秋 (2016) 「ブログにおける注釈とバラ言語」『武庫川女子大学言語文化研究所年報』 26
- 杉岡洋子 (2005) 「名詞化接尾辞の機能と意味」『現代形態論の潮流』くろしお出版
- 東川怜奈 (2015) 「Twitterに現れるヴァーチャル方言—強調表現に着目して—」『語文』 147
- 米川明彦 (2016) 「特集：仲間内のことばと文字—若者ことばの今」『日本語学』 35-6
- 依田綾乃 (2016) 「ツイッターに用いられる『一み』の用法」『信大言語教育』 26